



※  は市旗です。市全体の話題の場合に表記しています。



鹿屋 最後の貝採り会食

4月19日、学校再編により今年で最後となる菅原小学校の貝採り活動が、同小裏手にある海岸で行われました。30分程で約10kgもの貝を収穫。早速、保護者・地域住民の協力により、貝汁として調理されました。調理の間は、海への感謝の意を込めて、海岸清掃も実施。その後、参加者全員で持参したおにぎりとともに、給食として美味しくいただきました。



交通安全、防犯意識の向上を目指す

4月10日、県民健康プラザで、「鹿屋市安全安心決起大会」が行われました。これは、春の全国交通安全運動及び地域安全運動にあわせて開催され、鹿屋警察署や交通安全協会、防犯協会など、関係機関から約600人が参加。決起大会が行われたあと、安全安心パレードも行われ、交通安全や防犯に向けた取組をあらためて決意しました。



輝北 輝北畜産まつりでにぎわう

4月8日、牛馬の神として知られ「山王どん」の愛称で親しまれている輝北町市成の日枝神社で、毎年恒例の「輝北畜産まつり」が開催されました。当日は、島唄ライブや和太鼓などが行われたほか、血統書付きの黒毛和牛の子牛1頭が当たる抽選会も行われ、訪れた約1,500人の観客は大きな歓声を上げていました。



鹿屋 戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和を誓う

4月7日、今坂町の小塚公園で「旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式」が行われ、全国から遺族や元隊員など約400人が参列しました。今年で55回目を迎える同追悼式は、国内最大級だった旧海軍鹿屋航空基地から特別攻撃隊として出撃していった16歳から35歳の隊員908人の御霊を慰めようといわれているもの。式典では、参列者全員で国家を斉唱した後、特別攻撃隊などで戦死した御霊に黙とうを捧げました。嶋田市長は「隊員の無念を思う時、深い悲しみが込み上げ、ご遺族の長年の幾多の労苦と心情を思うと胸が痛みます。恒久平和の実現に努力します」と式辞を述べました。その後、桜の花が舞う中で、参列者による献花に続いて遺書朗読、生存者による「同期の桜」の合唱が行われ、戦没者の冥福を祈り、不戦と恒久平和の誓いを新たにしました。



韓国大邱市との交流

4月25日～27日に、韓国大邱市東区長他6人が、市を表敬訪問。韓国大邱市東区とは、地元企業を介し、平成22年度から、市特産品や観光地のPRによる産業交流を行っており、過去2回は市が韓国を訪問。今回初めて訪日を実現しました。滞在期間中は、「やねだん」や「かのやばら園」などを視察。双方から特産品の交換等も行われ交流を深めました。



鹿屋 子牛38頭が入牧

4月25日、入牧式が市営鳴之尾牧場で行われ、生後6か月～12か月齢の子牛38頭が緑豊かな牧草地に放牧されました。起伏に富んだ傾斜地で育った牛は、自家育成牛に比べて乳量や出産回数が増えるほか、耐用年数も1年以上長くなります。放牧期間は1年～1年半ほどで、人工授精で受胎後、分娩の2～3か月前に各酪農家に里帰ります。



鹿屋 「うぜけん市場」が初開催

4月21日、旭原町国道220号線沿いで「うぜけん市場」が開催され、会場内には新鮮な海・農産物販売、警察犬によるドッグショー、メダカすくいなどが行われました。これは、NPO法人愛・あいネットが「アリス食堂」を開店するオープニングイベントとして行ったもの。当日は店舗で十割そばやうどんなども販売。店舗は6月まで無休で営業予定です。



体育大の新入生 鹿屋の味を堪能

4月5日、リナシティかのやイベント広場で「鹿屋体育大学新入生歓迎会」が開催されました。これは、体育大学の新入生に一日も早く地域に溶け込んでもらおうと開催されたもので、今年で16回目。歓迎会では、かのやカンパチや鹿児島黒牛、黒豚など、地元食材を使った料理が振舞われ、参加した新入生209人は鹿屋の味を堪能していました。



20事業所、47人が出席 ～中小企業合同入社式～

4月4日、鹿屋商工会議所で中小企業の合同入社式が行われました。今年、製造業や観光業など市内20事業所から47人の新入社員が出席。新入社員を代表して秋元ガスの市来政季さんが「これから社会の一員として、諸先輩方の指導のもと頑張ります」と決意の言葉を述べ、参加した新入社員は、社会への旅立ちに身を引き締めていました。



かのや市商工会が発足

4月3日、旧申良町商工会館で、輝北町商工会と申良町商工会が合併して組織された「かのや市商工会」の開所式が行われ、関係者など約50人が新しい商工会の発足を祝いました。会員数325人となった同会の森義久初代会長は、「会員サービスの向上と地域経済の振興・発展に貢献できる商工会を目指す」と抱負を述べました。